



中央聖書神学校

Central Bible College

CBC後援会だより

vol.17

収穫は多いが働き手が少ない

宣教の第一線に送り出す担い手としての支援を

CBC後援会副会長 酒井 勝
(東京アーバンチャーチ)



コロナ禍が長期化し今年の後援会総会も事前に総会資料を配布し限定的な総会となりましたが、新たに2022年度がスタートしました。

特に感謝なことは、総会員数が前年度より124名も増え380名になったことです。全国の後援会の皆様の大きなご支援の賜物です。

後援会は神学生に貸与(返済免除あり)するための奨学金の原資を神学校に献金しています。他にも卒業生に記念品贈呈や環境整備の働きもしています。

今年度も更なる会員の方の入会を願っています。コロナ禍で全国・教区聖会もリモートではできませんが、必要範囲で呼びかけましたら伺う準備もしています。また、リモートでの参加が可能なため遠隔地からの後援会役員が加えられますようお願いいたします。

今、日本の神学校はどこも入学生が減少し危機的な状況と聞いています。

多様化社会に合わせて、通信科生やネット配信等様々な工夫が凝らされています。

高齢化と過疎化による信徒の減少で教会経済の自立が厳しく、無牧(牧師が不在)や複数教会の兼任牧師の状況も現実問題となっています。

一方、都心の教会も教会数はあっても礼拝出席者が減少しているところが増え、信徒の高齢化と若者が少ない傾向にあると聞きます。このような現状では日本のクリスチャン人口は低迷の域を出ないどころか減少の一途を辿る心配があります。

確かに現状は厳しく、卒業後に赴任される宣教地の働きも牧師先生の働きだけに背負わず心配があります。このような背景を踏まえると、神学生の時から継続的支援が求められます。

私が育った母教会では、宣教基金の制度があり、献身する神学生には希望すれば全額学費負担をして卒業後も暫くは任地に援助をしてきた時がありました。学びたくて

も学費の負担ができない等、出身教会によって格差がないように献身する神学生には安心して学べるように支援したいものです。

CBCでは入学や学びの工夫がされています。現状打開のため空いた穴を繕うだけでなく、私たちは宣教拡大のリアル信仰を常に抱き望みを抱いています。

「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主は、収穫のために働き手を送ってください。ように祈りなさい。」
(マタイ9:37-38)

「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くて悪くてもしっかりやりなさい。」
(Ⅱテモテ4:2)

この日本を自覚めさせるために「牧師が足りません、福音を伝える人がいません」とならないためにも、全国の後援会の皆様と一緒に、CBC卒業生をもっともつと送り出せるよう支援したいと思えます。

お祈りとご支援を感謝します

献身の証と神学校生活の抱負



本科3年生
藤本 剛史

皆様こんにちは。いつもお祈りと支援を感謝いたします。学生会長の藤本剛史です。

私の献身のきっかけは私が働いていたデイサービスがなくなることになったことです。その時、神学校に行くことについて祈る中で神様によって道が開かれ、2年前にCBCに入学しました。召命の御言葉はエレミヤ書の1章5節です。「わたしは、あなたを胎内に形造る前から、あなたを知り、あなたが腹から出る前から、あなたを聖別し、あなたを国々への預言者と定めていた。」この御言葉を神様から与えられた時、私は生まれる前から預言者「神から預けられた神の言葉を語る代言人」と定められていたのだと思いました。それから、神学校に行つてからも神様が経済面で私を助け、献身の道をことごとく開いてくださいました。1年目は神様に祈る中で母を通して経済が与えられ、2年目も別の形で経済が祝福され、そして、現在3年目も神学校で学び、訓練を受けることができております。

2017年4月に入学し、働きのながら通信科で学んでいましたが、今年度から本科の3年生として学びをさせてくださいたいです。

私には10人の兄弟がいます。貧しい家庭に生まれ、幼い頃からいつも兄弟の世話をしなさいで暴力をふるう飲み仕事をしないで暴力をふるう父の下で、いつもびくびくとして過ごすしかない毎日でした。20代になって、家庭集会の後、「信じるのがわかりません。」とお祈りしたとき、神様は私に身を委ねて安心しきっている娘の姿を通して「信じる」とはどういうことを教えてくださいました。同時に自分自身の罪を示され、イエス様の十字架が目の前に現れたのです。感謝と申し訳ない思いで涙があふれ、この方のために行うことができることは何でもしたいと強く思われました。

子どもたちも自立し、50代の半ばにさしかかる私ですが、その時与えられた献身の思いはますます強く心を捉え、日々増し加えられています。神学校の学びは、これから出会う人々に神様の愛がどれほど素晴らしいものであるかを伝えるためのものでもあります。先生方、母教会の皆様、後援会の皆様、たくさんの方々に支えていただいていることを感謝しつつ、励んでいきたいと思



本科3年生
祖田 美由紀



本科基礎課程
中村 成美

この度CBCで学びを受けることになりました、中村成美と申します。出身は兵庫県の田舎町ですが、大学進学のため島根県に移り大学3年生の時に救いへ導かれました。献身のきっかけは大学4年生の時でした。日本の大学生に宣教活動をしているクリスチャングループ、カイアルファとの出会いが大きな意味を持つものとなりました。彼らは私のために一人ずつ祈ってくれましたが、その祈りが彼らの本心であり、聖霊の言葉でもあることを感じました。私は特別な存在で良いリーダーになれる、周りを照らす光になれると祈りの中で言ってくれました。そのような経験は初めてで、神様の壮大な計画が用意されていることにわくわくしました。祈りの後、私の使命は献身して多くの人に伝道することなのではという考えがふと浮かび、その時初めて神学校に進みたいと思えました。大学卒業後就職し受洗しましたが、社会や教会の実情を知って心が挫け伝道への情熱がくすぶった時期もありました。しかし神様が呼び続けてくださったおかげで、昨年やっと一歩踏み出す決心ができました。

ハレルヤ。主の御名を賛美します。いつも、私たち神学生のために祈り、ご支援、尊い働きをありがとうございます。

本科1年生の栗澤紗良（くりさわさら）と申します。

献身を決意した経緯は、昨年の冬新年聖会の説教の中で語られた「私たちに對する神様の愛はどれほど大きいかわかり解しているだろうか」という内容が心を突き刺したことです。昔から何度も何度も聞いていたはずでしたが、この時は右から左に流れず、私を捕らえました。

また、別の日の礼拝で語られたイエス様の姿に、かつこよすぎやしないかと心を動かされ、いくつか理由や御言葉はありますが、最終的にはペトロの手紙Ⅱ3:9に示され、主の忍耐を減らした。かつこいイエス様に倣うぞ。等々、決心が固まり、時に揺らぎ、神学校に辿り着き、察でこの文章を作成することが許されております。感謝です。

神学校生活の抱負といたしまして、荒らしまがみ合いながらも、肌を大いに剪定に這いつくばりつつも献身を全うする事です。現在の苦しみは将来受けるはずの栄光と比べれば、取るに足らないものなどと、現在の私にとっても言えるようには思えません。最終的に聖書の学びは、喜びと満ちた、神様の深みに迫らせてくれます。やはり御言葉は正しいです。献身に導かれ感謝でした。



本科基礎課程
栗澤 紗良

通常総会報告

2022年2月26日(土)、通常総会が神学校のチャペルで行われました。コロナ禍を勘案して少人数開催を計画しました

が、それでも15名の参加を得て、有意義な議論の後、第1号から第7号議案が満場一致で可決されました。

また、全国各地から議決権行使ハガキが160枚余りあり、会員皆さんの意識の高さを確認することができました。会員皆さんのこの熱い思いを受けて、後援会は2022年度の活動を開始しました。



ハガキのご返信を感謝します！皆さまの励ましのお言葉に感激！



後援会の活動報告

中央聖書教会CBCサンデー報告

2022年4月3日(日)、中央聖書教会CBCサンデーが行われました。毎年この時期、中央聖書教会では神学校・神学生のために祈りつつ、この特別礼拝を捧げています。



酒井源次会長の参加は、コロナ対応のために一昨年より延期された経緯があり、2年越しにようやく実現した企画です。

本田勝宏牧師の説教「人を漁る者として」の直前に、後援会のアピールタイムが設けられました。会堂にスピード感とユーモアに溢れる酒井節がさく裂し、その熱いスピーチに信徒一同は、予定時間を多少延長したことなど気にも留めず、心から励まされ神様を賛美いたしました。

会長は礼拝後開催された庭山桃江師の就任式、集合写真撮影、歓迎会にも参加され、信徒皆さんと良い交わりを持ちました。

今年度は、酒井会長をはじめ後援会役員が個教会をできるだけ訪問し、後援会のアピールをしていきたいと考えています。

そのような機会がありましたら、後援会あて、お気軽にご相談ください。

4月3日 CBC サンデー	
「人を漁る者として」	
第一礼拝 午前9時	司会 週報
招詞	司会者 一同
ワニツブ	司会者 一同
主の祈り	司会者 一同
賛歌 525	司会者 一同
聖書朗読 イザヤ6:1-8	司会者 一同
使徒信条	司会者 一同
CBC 後援会の紹介	酒井 源次兄
聖書 マルコ1:17-18	司会者 一同
エペソ4:11-15	司会者 一同
説教	本田勝宏牧師

ナイトクラス『教会史①』潜入ルポ

昨年9月〜11月の3ヶ月間、毎週木曜日19時〜22時のナイトクラスを聴講した。講師は三宅規之校長、講義内容は『教会史①』。初代教会からルネサンス、宗教改革直前までを全9回で学んだ。本科基礎課程の4人と私はリアル出席、全国の通信科基礎課程の6人はオンライン出席だった。講義、小テスト4回、中間・期末の論述試験2回は、Google Classroom を使って行われた。ここで学んだ目的は次の3つ。

- ① 一般教養としてのキリスト教の歴史を理解する。
- ② 神学の発展の歴史的背景を理解する。
- ③ 今日の福音宣教を教会史から考える。感想 興味深かったことは、



授業風景



手作りの差し入れ

おはて! CBCアーカイブ わたしたちは誰ですか?

1960年ごろ 全国聖会裏方 『創立30周年記念誌』1981.6.15 より
この方たちにお心当たりの方、後援会事務局宛にメールください

大学制度をはじめ、西洋文化だと思っただ多くの事柄がイスラム文化圏からの輸入であったこと。
・学校の世界史では見えなかった今日に続く神の宣教の一端を知ることができた。
・学ぶことはやはり楽しく、充実するということを再発見した。
最初の小テスト「あなたが教会史を学ぶ意義と目的」に、私は次の通り解答した。「教会史とは、クリスチャンがいかに福音を伝えようと様々な工夫をしてきたのか、その歴史であることを理解する。次に先輩方が成したことを追体験することで、自分の現在地を解明したい。教会史は私たちが次の行動へ駆り立てる力である。教会史の学びを今日の自分の課題解決や今後の福音計画の道案内として活かしていきたい。」
ナイトクラスは今年度も実施予定なので、ぜひ皆さんも潜入してみたいかがだろうか。(横須賀直人)
※聴講については、神学校にお問い合わせください。

奉仕で神学校を 支援いたしましょう!

7月2日 土
9:50(食堂集合)
~12:00

校内清掃、植栽剪定など
(雨天決行/校内清掃)
後援会が弁当を用意します。

どなたでも参加可能です。お待ちしております。
神学生とともに汗を流しましょう!

自教会の牧師先生にご報告の上、
下記メールアドレス、FAXにて6/25(土)までにお申し込みください。
✉ kouenkai@cbc-j.ac.jp
FAX 03-3918-4064

● 感染症 & 熱中症対策をしてご参加ください。

2022年度 会員数・会費納入状況 (1月~4月)

区分	年間計画		実績		計画対比		
	会員数	会費(円)	会員数	会費(円)	会員数	会費(円)	会費進捗
法人会員	7	300,000	4	240,000	-3	-60,000	80%
教会会員	55	1,000,000	15	332,000	-40	-668,000	33%
個人会員	290	2,500,000	143	1,287,000	-147	-1,213,000	51%
賛助会員	50	100,000	11	26,000	-39	-74,000	26%
合計	402	3,900,000	173	1,885,000	-229	-2,015,000	48%

これからもお祈りのご支援をよろしくお願いいたします
献身者が経済的な憂いがないように支援の輪に加わりましょう

「後援会だより」や郵便局の払込取扱票が必要でしたら、
ご遠慮なく左記にお問い合わせください。

発行所 中央聖書神学校後援会
所在地 〒170-0003
東京都豊島区駒込3-15-20
TEL 03-3918-4925
FAX 03-3918-4064
E-mail kouenkai@cbc-j.ac.jp
編集 後援会委員会
印刷所 ベーテールフォト印刷(株)
発行日 2022年6月1日

● 将来の本科・通信科の融合を
目指し、昨年からのZoom授
業やナイトクラスをスタート
しました。今号では後援会役
員が自らナイトクラスに挑戦
した体験ルポを掲載しました。
一方、本年は本科の新入生
2名で、駒込で学ぶ学生数は
7名まで減少しました。この
ような中での後援会活動は資
金面援助はもとより、校内清
掃支援も大
切な活動と
考え、本年
も7月2日
(土)に「C
BC環境整
備」を計画、
学生と一緒
に汗を流し
ます。どな
たでも参加
可能ですの
で、お待ち
しています。

